

日本あちこち河川遡行記（第 256 回）

奈良 1-2. 富雄川（その 2） 本編 平成 31 年 4 月 12 日（金）曇り後晴



00.今回調査区間位置図

春休みが終わったせい今朝のこだま指定席は半分の入りと少ない。新大阪からは「東おおさか線」利用とする。久宝寺行き各停に乗るとホームの向かい側に奈良からの直通快速が到着。新大阪駅周辺に増えた会社に出勤するのか結構な乗車率である。久宝寺で大和路快速に乗り換え「大和小泉」駅で下車。初めて利用する駅で、東口から 400m ほど西の富雄川に向かう。県道 123 号の「小泉橋」の橋際には屋根だけの大きな小屋が建ち、中には石像が納められ何故だか神社で見かける鈴が各石仏の前に有る。鈴付きのお地蔵さんを初めて見る。

前回は法隆寺と中宮寺巡りで予定していた橋を見なかったもので、下流の国道 25 号の「米寿橋」を見るため右岸側の土手道を 800m ほど南西に歩く。土手際には大きな 1 本木が若葉が淡い色合いをして立っている。



01.石像に参拝用の鈴が有るぞ



02.若葉が出だした大きな木

車道橋の両側に後から追加した歩道橋が並んだ米寿橋を見て来た道を U ターンして北東に向かう。最初に見た小泉橋の横を通過して右岸側を北に進む。次の橋に来ると橋が二つに分かれて利用されている。下流側を歩道に、上流側を狭い 1 車線に区分している。左岸側には大和郡山市立片桐中学が見える。両方を見比べると歩道の方が広い。この橋は通学者優先なのだ。



03.歩道（右）の方が車道（左）よりも広いなー

次の県道 9 号の「富雄橋」に着くと遡行を一旦中止して近くの丘の上に有る「慈光院」に向かう。地形図に史跡・名勝を示す記号が「寄ってちょうだい」と言っているので、せっかく近くを通るので左折して庭園を見に行く。慈光院の説明は次回に特集として纏めることにしてこの後は遡行の続きとする。



04.慈光院に立ち寄る



05.土手道から慈光院を池越しに見る

土手道はここまで「飛鳥・葛城自転車道」で普通の道路であったが、「奈良自転車道」に変わり土手道とは別に河川敷に専用道を造り自転車道らしくなっ

た。緑色のカラー舗装もされ桜並木も現れる。広くなった河川敷にはタンポポも咲いている。薄桃、緑、黄の三色と空の青とが鮮やかである。



06.自転車道を北上する



07.桜並木が続く



08.タンポポが一面に

兩岸の土手道を繋ぐ歩道橋の高欄（手摺）は木製で景色に合っているぞ。



09.高欄が木製の歩道橋

右岸側から左岸側に移り「福寿橋」に来ると親柱に大和郡山名産の「金魚」が描かれている。街の南の昔は田圃であったであろう所には多くの養殖池が地形図に描かれている。市のマンホールの絵柄も金魚である。



10.大和郡山の名産、金魚が親柱に 10-1.マンホールの絵柄も金魚えー、金魚

どこかで昼をと座れるベンチを探しつつ歩いて来たが、なかなか見つけられなく諦めかけた時に桜並木の下に有った！散り始めた桜の下で暫しサンドの昼を摂る。今年は3度も桜が見られてよかったなー。



11. やっとベンチに着き昼休みをここで

北上を続けると川沿いの土手道は県道7号となり、両側に2車線ずつの一方通行の幹線道路となる。北からの流れだった川は北西方向に変わり、緩やかな低い丘陵の間からの流れとなる。西に「矢田丘陵（H=200～300m）」、東に「西ノ京丘陵（H=100m）」が南北に細長く連なる住宅建設には絶好の丘である。大阪から至近距離にあり多くの住宅が建設され人口が大きく増えた。

第二阪奈道路の下を潜り川は西からと変わる。矢田丘陵の麓の広大な駐車場には「大本山霊山寺」と彫られた石柱が立っている。駐車場の奥の参道の入り口にはお寺なのになぜか鳥居が立っているではないか。同名の寺が四国88か所の1番札所として鳴門に有るぞ。多くのタクシーが客待ちをし、何台かは止めて駅の方に戻って行く。富雄駅からのバスの本数が少なく年寄りが参拝するのでタクシー利用が多いのだろう。

狭くなった谷間を歩いて行くと田圃の片隅に多くの色が混じったチューリップが覇を競っている。



12. 大本山の入り口に鳥居が有るぞ？



13. 色とりどりのチューリップが

北北西からの流れとなり、今は無料になっている「第一阪奈道路」の下を潜る。この道は日本道路公団が建設、管理した初期の有料道路で既に50年以上経っており、桁の状態は芳しくない。



14. 阪奈道路の橋の状態は良くない

「三碓」、これで（みつがらす）と読む、バス停まで来ると丁度富雄行きバスがやって来たので、ここが潮時と乗り込む。二つ目の終点のバス停は駅から相当離れた所にあり運賃は190円、高一。これならそのまま歩けば良かった。駅は二つの丘陵の間の谷間に有り、広い駅前広場が造れなかったのでバスも離れた所から発着しているのだろう。ホームに上がり線路を見ると、駅（川）の東西は急こう配（30%）になっており、子供の時に急行に乗るとまるでジェットコースターに乗ったような気分になったのを覚えている。この駅に雨の日、満員の電車をピタリと止めるのは難しいだろうな。



15. 「富雄」駅は急勾配の谷間に

本日の歩行距離：12.5km。調査した橋の数：39。

総歩行距離：10,382.7km。総調査橋数：13,063。

使用した1/25,000地形図：「大和郡山」（和歌山1号-3）、「奈良」（京都及大阪4号-4）、「生駒山」（京都及大阪8号-2）